

街並みテクテク No. 12：神泉駅～下北沢駅（2024-3-17）

参加者：碓貴臣、岸敦夫・美智代（夫妻）、佐熊範和、染谷ミドリ、高野泰三郎、黛政男、三木和幸、山岸任、木村芳一（敬称略；計10名）

行程：神泉駅～下北沢駅 約5km

神泉駅→鍋島松濤公園→東大駒場→駒場野公園→駒場公園→日本民芸館→下北沢→下北沢駅

- ・比較的气温は高かったけれど、北風が吹いていました。東大駒場キャンパスを中心に、その周りの公園、美術館等を巡りました。
- ・鍋島松濤公園は、紀州徳川家の下屋敷だったところを鍋島家が取得し、松濤園という茶園を造ったのが始まりです。公園には自然湧水池と水車が設けられており、池の周りには水車を中心とする景観を描いている人が複数いました。
- ・東大駒場には裏口から入り、駒場池（愛称：一二郎池）に寄り、新しい現代的な建物、また歴史のある古い建物を見ながら散策しました。
- ・駒場野公園には様々な林がありました。入口付近は明治維新後、駒場農学校が開校され、近代農業に取り組んだ場所であり、ドイツ人教師ケンネルが土壌や肥料の研究を行ったケンネル田圃が残されていました。
- ・駒場公園は旧前田侯爵の駒場邸跡で、外側に化粧レンガやタイル張りを施し、内部に大理石のマントルピースや柱、英国製家具を備えた洋館および違い棚や欄間の透かし彫りなどを備えた、客用の書院づくりの和館が設けられ、それぞれの豪華さに圧倒されました。
- ・日本民芸館は民芸運動の創始者・柳宗悦らによって開設され、日常生活にかかわる工芸品が数多く展示されていました。
- ・駒場公園から高級住宅地を歩いて下北沢まで歩きました。下北沢には多くの店があり、また多くの若い人が歩いており、その一角にある居酒屋で懇親会を開き、盛り上がりました。

（木村芳一）



神泉駅前にて



鍋島松濤公園内の水車のある池



東大駒場の駒場池の案内板



大学の本館（時計台）



駒場野公園のケンネル田圃



駒場公園内の旧前田侯爵の和館



駒場公園内の旧前田侯爵の洋館



洋館の内部